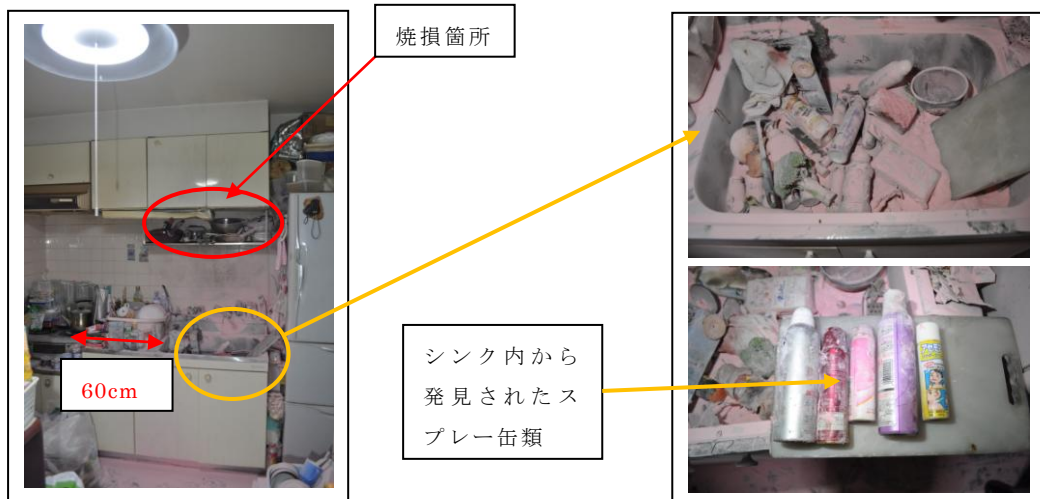


# スプレー缶のガス抜き作業における火災事例

## 火災概要

今回の火災は耐火構造の共同住宅居宅内の台所シンクにて、家人が使用済みのスプレー缶のガス抜き作業を行っていたところ、お湯を沸かすために使用していたコンロの火が引火、シンク周囲の吊棚や照明器具、その他台所用品が焼損したものです。

## 原因概要



- ① 空気の流通の無い室内でガス抜きを行ったこと。
- ② ガス（LPG）抜きの近くでガスコンロを使用したこと。

原因として考えられるのは以上2点。画像にもある通り、60cmの離隔距離があっても引火したことから、LPGの引火性の強さがうかがわれます。

## ★LPG（liquefied petroleum gas：液化石油ガス）とは・・・

LPGは制汗剤・消臭スプレー・整髪料など、スプレー缶の多くで噴射剤として使用されています。中身を使い切ったと思っていても噴射剤は残っていることがあり、そのような状態で不用意に穴を開けるとそこからLPGが噴出し、近くの火気に引火した結果火災を引き起こすこととなります。また、ごみとして出されたスプレー缶がごみ収集車や集積所内で圧縮された際に穴が開き、同様の火災を引き起こすこともあります。

## ◎スプレー缶による火災を無くすために

スプレー缶の処理を誤ると、ごみとして回収された先のごみ収集車や集積所でも火災の原因となります。それらも防ぐためにもスプレー缶の処理は以下の点に注意してください。

- ① 中身を完全に使い切ってから捨てる。（残っている場合は全て噴射しきる。）
- ② ガス抜きをする際は屋外の風通しの良い場所で行い、周囲では火気の使用はしない。

※スプレー缶の処分方法は各自治体によって異なりますが、枚方市・寝屋川市は以下の通り指示しています。

枚方市・・・必ず中身を使い切り、空き缶・ビン・ガラス類の日に

寝屋川市・・・必ず中身を使い切り、分別収集カゴのある拠点へ

→両市ともに、必ずしも穴あけによるガス抜きを求められていません。

スプレー缶の処理法については、次のリンクを参考にしてください。

[\(HP\)日本エアゾール協会\(外部リンク\)](#)

目指そう！  
火災ゼロのまち



消太・消子